



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第3号〉

風の色



歌川広重 「富士三十六景 駿河薩夕之海上」

縦大判錦絵 安政5年（1858）

画面を大きく斜めに横切ってうねる高波にまず目を奪われます。重なり合う波は見事な藍のグラデーションによって彩られ、さらに細かな白い波頭がそれを縁取っています。

波が激しく打ち寄せる薩埵嶺（現静岡県由比町）です。かつては東海道が崖下の海岸線（画面左手）を走っており、「親不知子不知」

の海岸として知られていました。波が引く一瞬に走り抜けなければ通れない難所で、親さえも子を、子も親を顧みる余裕が無いほどであったための名称です。広重の時代には、既に東海道は海岸線から山中を行く道に変わっており、富士山を海上に望む名所となっていました。広重は荒れ狂う波と、泰然と構える富士の雄大な姿を対照的に描いています。

この作品は日本各地から見た「富士山」の姿を縦長の画面の中に描いた36枚揃の一枚です。その「富士三

十六景」というシリーズ名から広重が葛飾北斎の名作「富嶽三十六景」（全46枚揃 天保初年頃）に少なからず影響を受けたと考えられるでしょう。しかし、この作品についても（彼にしては大胆な構図ですが）、北斎の圧倒的で見せつけるような作品と較べると、どこかまとまりと品があり、広重らしさを感じさせます。

なお、この「富士三十六景」は、平成13年度に馬頭町広重美術館が新たに購入した5作品の一つです。

「キョツソーネ東洋美術館所蔵 浮世絵」展鑑賞に参加して

「友の会」会員 大森クニ子（宇都宮）
天候に恵まれた2月6日、34名の参加者が足利市立美術館に集合しました。

肉筆画40点のなかで、「四条河原夕涼図」の微妙な人物表現と繊細な色使い、流れるような構図にうっとりしました。当時一流の絵師達7名の合作「七福神」の掛け軸には当時の文化人の交流の広さを知ることが出来ましたし、西洋の明暗法を学び描かれた絵には驚きました。浮世絵の変遷がわかるように展示され



友の会見学会 足利学校にて

た会場を進むと、東洲斎写楽の役者絵四枚が目飛び込んできます。役者の個性と表情の妙が的確に描き出されていて見事で、目の当たりに見ることが出来てとても感動しました。

眼な裏に写楽の目あり春の蕾 クニ子
中でも大判錦絵三枚続の展示が多く「物干し」「浄瑠璃姫館」「御殿山花見駕籠」等見ごたえのある作品ばかりです。

また、それぞれの作品を稲垣館長がご説明くださり、一時間半では足りない見ごたえのある浮世絵展でした。和やかに皆さんと昼食をとり、日溜まりのなか、各自足利学校・ばん阿寺などを散策して解散。浮世絵が一段と身近に感じられた一日でした。

「素晴らしいものをたくさん見ること、そうすると浮世絵が益々面白くなりますよ」という館長の言葉が心に残りました。

美術館ボランティア募集中

美術館が開館して1年4ヶ月になります。その間におよそ16万人の方々が美術館を訪れ、浮世絵の魅力に浸ってくれました。この美術館を支える力のひとつに美術館ボランティアがあります。

来館者のみなさんにゆつたりとした雰囲気の中で、作品を十分に鑑賞していただき、満足していただくためには、多く

のボランティアの皆さんの協力が必要で

現在は馬頭町内を始め、町外の方々もたくさんボランティアとして活動されていますが、特に日曜日が手薄になっております。

浮世絵や歴史が好きな方・時間に余裕のある方、ぜひ美術館ボランティアとしてご参加ください。

●活動内容：展示室監視が主な仕事です。
●活動日数、活動時間等については、美術館ボランティア係
TEL 0287(92)1199までお問い合わせ下さい。

美術館の利用案内

●開館時間／午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

●休館日／月曜日・祝日の翌日（祝日の翌日が土、日曜日は開館）年末年始（12月28日～1月4日）

※展示替えのための臨時休館があります。

●観覧料（企画展）

一般／500円（450円）

高・大学生／300円（270円）

小・中学生／100円（90円）

（～内は20名以上の団体1人あたり）

※65歳以上の高齢者・身障者割引があります。（特別展を除く）

※特別展の場合は、別途になります。

小学生未満は無料です。

馬頭町広重美術館 友の会 入会のご案内

馬頭町広重美術館友の会の
更新の時季となりました。
今年度もぜひ、お問い合わせの上
ご入会下さいますよう、お待ちしております。

会費

●一般会員（一般）年額	3,000円	●特別会員（個人）年額	10,000円
（学生）年額	1,500円	●特別会員（法人）年額	一口 30,000円

特典

- 特別展・企画展が無料で何回でも観覧できます。（特別会員は同伴者2名まで可）
- 友の会主催の見学会・講演会・講座等に参加できます。（特別会員は同伴者2名まで可）
- 会報・展覧会スケジュール等の案内送付
- 会員証でミュージアムショップの商品割引等

※このほか特別会員（個人）には図録の進呈、（法人）には特別展招待状送付などの特典があります。
※同封の振込用紙をご利用ください。

コレクションに見る絵師1

近代洋画の先駆者 川村清雄展

今年、青木コレクションに50点以上の作品及び資料が所蔵される洋画家川村清雄（1852-1934）の生誕150周年にあたります。そこで、6月6日から30日まで「コレクションに見る絵師1 近代洋画の先駆者 川村清雄展」を開催いたします。

川村清雄は、油彩画を本格的に学んだ



川村清雄「梅に雀」(当館蔵)

初の日本人と言っても過言ではありません。しかし清雄を知る人は少ないと思いますので、展覧会に先駆けて清雄と作品についてご紹介いたします。

清雄の生涯

嘉永5年（1852）、川村清雄は幕臣の子として生まれました。やがて江戸幕府は崩壊し、明治5年（1781）清雄ら若い旧幕臣は徳川家私費留学生としてアメリカへ留学します。

留学先で勉学の合間に描いた絵が絵画教師に認められ、清雄は画家になる決心をします。そしてパリやヴェニスで油彩画を学ぶ一方、丁度ジャポニスム（日本趣味）の流行するヨーロッパで日本の伝統美に芸術性を再認識し、油彩という西洋の手法で日本画を描こうと固く誓います。

明治14年（1881）に帰国した清雄ですが、その絵は当時の人には理解され難く、同32年上野で開いた初の個展は酷評されてしまいます。ショックで何も手につかなくなつた清雄の名は世間から忘れられ、画壇とは完全に無縁となつた清雄は、一部の愛好者と生活のために作画を続けます。昭和2年（1927）と同4年には個展を開きますが再評価には至らず、昭和9年、数え年

83歳で生涯を閉じました。

清雄は決して成功した画家ではありませんが、生涯「油絵師」を貫いた幸せな人生だったことでしょう。

コレクションと清雄作品

清雄のご子息川村清衛氏のご記憶によれば、収集家青木藤作は清雄の最晩年にあたる5年間、画家と交際をしています。その交流は、小品ながら良質なコレクションの形成に繋がりました。

「梅に雀」は清雄の画風が顕著に現れた作品です。黒漆を塗った板の上に、日本の古来からの画題である雀と梅を、油彩で描いています。無背景などところも非常に日本的です。明治期には受け入れられなかった作品も、現代に生きる私達には新鮮ですらあります。

清雄はしばしば肖像画の注文を受けました。明治33年（1900）頃制作された

「福澤諭吉肖像」(慶應義塾大学蔵)

「福澤諭吉肖像」(慶應義塾大学蔵)はその代表作です。そしてこの作品を描く際に利用した写真が、青木コレクションに現存しています。画面大に引き伸ばすため写真にはマス目が引かれ、微細な描写を要求される顔の部分には更に細か

いマス目が走ります。このような貴重な資料が収集されたのも、画家との直接の交流あつてこそでしょう。

展覧会では、この「福澤諭吉肖像」を、写真、下絵（江戸東京博物館蔵）とともに展示するほか、青木コレクションの川村清雄全作品と他館所蔵の代表作数点、合計約60作品を出品します。当館の清雄作品が一堂に会するまたとない機会ですので、是非ご来館ください。

(学芸員 折井 貴恵)



川村清雄「福澤諭吉肖像」(慶應義塾大学蔵)



「福澤諭吉肖像」(写真) (当館蔵)

今後の展覧会予定

企画展「広重と北斎の富士三十六景展」

●会期

平成14年4月23日(火)～4月2日(日)

巨匠、歌川広重と葛飾北斎。浮世絵における風景画の発展に大きな功績を遺した二人は「富士山」をどのように描いたのでしょうか。広重の作品では新たに当館が購入したばかりの「富士三十六景」(縦大判36枚揃)、北斎は「富嶽三十六景」(横大判46枚揃)を一部、他館等より借用しての展示です。

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 4月27日(土)・5月25日(土)

●講演会「広重と北斎」

館長 稲垣進一 5月4日(土)

企画展 広重と北斎の富士三十六景展

4月23日(火)～6月2日(日)

ミュージアムトーク=4月27日(土)・5月25日(土) 当館学芸員
講演会=5月4日(土)「広重と北斎」当館館長 稲垣進一

企画展 コレクションにみる絵師1

近代洋画の先駆者 川村清雄展

6月6日(木)～6月30日(日) 一部展示替あり

ミュージアムトーク=6月8日(土) 当館学芸員
講演会=6月22日(土)「川村清雄と青木コレクション」
当館学芸員 折井貴恵

企画展 浮世絵のお化け・妖怪展

前期=7月5日(金)～8月4日(日) 後期=8月8日(木)～9月8日(日)

ミュージアムトーク=7月6日(土)・8月31日(土) 当館学芸員
講演会=7月20日(土)「江戸の妖怪」当館館長 稲垣進一

企画展「コレクションに見る絵師1 近代洋画の先駆者 川村清雄展」

●会期

平成14年6月6日(木)～6月30日(日)

馬頭町広重美術館が所蔵する青木コレクションのなかで一つの大きな特徴を形作っている川村清雄の作品群。一般に広く知られていない画家ですが、日本の初期洋画界において川村清雄は重要な位置を占めています。青木藤作氏との関わりも絡めて清雄の画業の全貌を見つめ直す展覧会です。

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 6月8日(土)

●講演会「川村清雄と青木コレクション」

当館学芸員 6月22日(土)

企画展「浮世絵のお化け・妖怪展」

●会期

前期/平成14年7月5日(金)～8月4日(日)
後期/平成14年8月8日(木)～9月8日(日)

古くから絵画の題材として扱われてきたお化けや妖怪は、浮世絵においても美人画や役者絵同様、多くの絵師により表情豊かに描かれてきました。この展覧会では、浮世絵師たちがユーモアと奇抜なアイデアを競って描いたお化けと妖怪の世界をご紹介します。

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員 7月6日(土)・8月31日(土)

●子どものための夏休み特別企画

「コワ～い!見た～い! お化け・妖怪探検」

妖怪探検

7月27日(土)・8月17日(土)

子どものための夏休み特別企画

コワ～い!見た～い!
お化け・妖怪探検

7月27日(土)・8月17日(土)



開館二周年記念特別展 江戸の旅 東海道五拾三次展

前期=9月13日(金)～10月14日(月) 後期=10月18日(木)～11月24日(日)

ミュージアムトーク=9月14日(土)・9月28日(土)・10月19日(土)
11月2日(土)・11月16日(土) 当館学芸員

記念講演会=10月12日(土)「広重 東海道五拾三次 その美と造形」
当館館長 稲垣進一

11月3日(祝)「広重 名所絵の新しさ」(仮題)

千葉市美術館 学芸係長 浅野秀剛氏

■特別展観覧料は別途料金になります。お問い合わせ下さい。

企画展 広重・国貞・国芳展

11月29日(金)～12月25日(水)

ミュージアムトーク=11月30日(土)・12月21日(土) 当館学芸員
講演会=12月7日(土)「歌川派の三巨匠」当館館長 稲垣進一

企画展 青木コレクション名品展

平成15年1月5日(日)～2月2日(日)

ミュージアムトーク=1月11日(土)・1月25日(土) 当館学芸員
講演会=1月18日(土)「青木藤作とその時代」当館学芸員 折井貴恵

企画展 三人の広重展

2月6日(木)～3月9日(日)

ミュージアムトーク=2月8日(土)・3月1日(土) 当館学芸員
講演会=2月15日(土)「三人の広重」当館学芸員 市川信也

企画展 浮世絵師が描いた諸国名所絵展

3月14日(金)～4月13日(日)

ミュージアムトーク=3月15日(土)・4月5日(土) 当館学芸員
講演会=3月22日(土)「浮世絵 風景画の歴史」当館館長 稲垣進一

●講演会「江戸の妖怪」 館長 稲垣進一 7月20日(土)

開館二周年記念特別展 「江戸の旅 東海道五拾三次展」

●会期

前期/平成14年9月13日(金)～10月14日(月)

後期/平成14年10月18日(金)～11月24日(日)

あの有名な歌川広重「東海道五拾三次之内」(保永堂、仙鶴堂合板)を中心に、当時の旅の風俗を紹介する展覧会です。東海道を廻る旅を広重の作品とともに楽しみなさい。

(入館料が特別展料金となります。)

●ミュージアムトーク(展示解説)

当館学芸員

前期/平成14年9月14日(土)・9月28日(土)

後期/平成14年10月19日(土)・11月2日(土)・11月16日(土)

●記念講演会「広重東海道五拾三次

―その美と造形―

館長 稲垣進一

平成14年10月12日(土)

●記念講演会「広重 名所絵の新しさ」

(仮題)

千葉市美術館 学芸係長 浅野秀剛氏

平成14年11月3日(日)

馬頭町広重美術館友の会ニュース 第3号

平成14年3月31日発行 編集発行/馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭116-9
TEL 0287-921109 FAX 0287-927177
http://www.hiroshige-bato.tochigi.jp/